

# 今こそやろう減災式

前回、突然の自然の振る舞いに付き合うには、防災の知識だけではなく、主体的に災害と向き合い、命を守る行動を臨機応変にとる「責任ある姿勢」「姿勢の防災」が一番大切ということをお伝えしました。しかし、皆さんよりもう少し詳しくとのご意見があり、引き続き「姿勢の防災」についてお伝えします。

自然を相手にする場合は、防災の知識だけではなく、自分の命を守り、災害に立ち向かう「姿勢」が重要です。皆さんは、阪神・淡路大震災以降の20年間に災害が発生する度、メディアや行政を通じて「災害の恐ろしさ」「防災の重要性」を知る機会が多々あったと思います。でも、多くの方は未だに、家具や家電の転倒防止・落下防止対策をしていないのです。「判っているがお金も掛かる・・・、時間も取れない・・・」とできていない言い訳の準備だけは早々に考えつくようです。でも次の災害時に「やってあげばよかったなあ、しまった！」と思うことになりかねないのです。



人間は、頭や知識で判っていても、行動に結びつけることが難しいといわれています。特に「いざ！その時」という場面では、今までに経験しえたことしか実行行動ができないものです。当然何もやっていなければ、何もできないのは当たり前！ところが、私ひとりくらいは、やらなくても誰かが助けてくれるだろう。地域の人達は「防災減災・災害のための準備を、せつせとやっている。もしも災害が発生したら、地域の人達が助けてくれる。食べ物も分けてもらえる。私の家はそこまで余裕なんて無いからね。日々生きる事に精一杯で、いつ来るか判らない災害の為に無駄にお金や時間は使えない」と思い込んでいる人が、残念ながら未だにられるようです。



今一度思い返してください。阪神・淡路大震災では、死者6434人の内、直接死で亡くなった約5500人の内の9割が“15分以内”に亡くなった即死です。この教訓から15分以内の対策の重要性を考えると答えは簡単です！「他人は当てにできない」。では、当てになるのは誰か？家族や近所の人達です。その為にやっておくべきことは普段からの「地域活動への参加」と「日頃から近所の方々への挨拶」ではないでしょうか。日頃の積み重ねが災害発生時には「あなたの大切な災害保険」となります。

いやいやそんなことはない！私たちの地域には防災会もあり、確立された自治会、民生委員さんもしっかりしている。素晴らしい運営をする管理組合もある。

しっかりした管理会社にも契約しているから、すぐに誰か助けに来てくれるだろう。だから防災なんて「誰かにまかせておけば大丈夫だ」という意見を持つ方もいる。

確かにそれぞれの組織は、素晴らしい活動をしています。でもそれらは、自分の命を自分で守ろうともしないあなたのために活動しているのではありません！

疑問？「じゃあ、何のためにやっているの？」

答え！大きな災害に襲われたとしても「生きぬく」自分や自分の大切な人が生き残れるために活動しているのであって、普段から生き残る努力をしていない人を助けるために活動しているのではありません。やはり「生き残る・生きぬく意志」は必ず持つ必要があります。

「自分の命を守る」のは、日本国でも行政でもなく「自分だ」という主体性を強く持つ意志が必要です。主体性を持って行動できれば、なぜ備えなければならないのか。その為には何をしておけばよいのかが次々にひらめきます。それはあなたしかできないことで「あなたの命を守ることができるのは、あなたしかいないのです」だから地域活動には参加をして現実目を見る。どんな先進的な防災組織でも「生きぬく努力をしない人の命を守ることなんて絶対にできない！」と言い切れます。

疑問？「そんなに大袈裟に言わなくても！9月1日付



の新聞掲載ハザードマップには、私の家のところまで津波なんて来ないと書いてあったし、揺れだって震度7なんて来ないと書いてあったから大丈夫じゃないの？」

答え！ハザードマップなんて信じるな！と強く言いたい。本当にハザードマップの想定通りになると思いますか？想定より小さいかも知れないし、想定より大きいかも知れない。「想定が最重要だ」と思い込む人が多い。しかし想定がどのようにできあがったのかも理解せずに、丸ごと信じ込み、それ以上のものは襲ってこない勝手に判断する。これは自分の命を行政に丸投げしている「依存防災」であり、依存するということは、主体的に自分の命を考えていないということになります。

疑問？「どうすれば主体的な防災がやれるの？」

答え！想定に自分の命を委ね、防災は誰かがやってくれて、災害から守ってくれるという傍観者にならないこと！その時に慌てなくてもすむように、災害を冷静にやり過ごせる知恵を手に入れましょう。その為には「挨拶」が非常に効果的です。挨拶をすれば、多くの人と話すことができ、知識が増え、自分の知らなかったことや、ものの見方も変わり「自分の命を守ること」も理解できるようになります。

「姿勢の防災」は、災害に対峙したとき、臨機応変に考え行動し、それぞれの状況下においても最善をつくすことができるように「日頃から挨拶を通して地域参画をしておくこと！」これが今回の減災式です。